

南部町民と議会との懇談会 会議録

令和6年4月24日（水）

19時30分開会

場所：分庁舎2階会議室

1、出席議員（12名）

1番：芦澤潤一郎	2番：望月憲之	3番：望月小五郎	4番：塩津 悟
5番：望月郁夫	6番：木内秀樹	7番：遠藤高芳	8番：高橋茂広
9番：遠藤光宣	10番：仲亀佳定	11番：小泉昇一	12番：望月光彦

2、欠席議員（なし）

3、議会事務局出席者

議会事務局長	渡辺正樹
議会事務局書記	若林弘平

①南部町議会基本条例について

・高橋茂広議員 説明

〈質疑応答〉

問 12ページ、第8章災害対応について、近年大きな災害が発生している中で、南部町としても詳細な計画の中で対応を図っていくと思いますが、議員の皆さんにも防災士の資格を取っていただき、地域の防災へ貢献できる体制をつくっていただきたい。そうすることで、議会の本会議等でも防災についてより深まった話し合いが出来るのではないか、是非進めていただきたい。

答 町職員と防災士の資格の取得について話をする機会はあったが、議員については考えたことはなかった。今回いただいた意見を基に議員の防災士の取得について話し合い、検討していきたい。

問 南部町議会災害等緊急時の行動計画について、議員の中で申し合わせは行われているということだが、計画の中身を見ると、現実的でないものが見受けられる。災害対策

本部を議員でつくること、各議員は各地区の避難所へ向かうこと、議長からの招集があれば議員は本部へ向かうこと、こういった内容は現実的に思えないため、議員定数が削減されるこの機会にもう一度見直していただきたい。

答 災害が頻発している現状もあるため、現在ある行動計画については全員協議会を開くなどして見直しを進めて行きたい。

問 18条、補助金関係団体の代表に就任しないというのは、極端な線引きではないか。議員は住民の代表であり、これらの団体も住民で構成されるため、その状況を理解することも議員としての務めの一部ではないか。必要とあらば議員が役につくことがあってもいいのではないか。住民としては議員も同じ気持ちで役を背負ってほしい。

答 他地区でも同様の話があった。検討段階において議員の中でも議論されたが、「原則」という表記があるため、必要に迫られた場合は選出することも可能であるということを承知いただきたい。

再 原則ということで、議員本人に補助金関係団体の役につく意思があるのであれば、それは問題ないということか。

答 問題ない。この件については、条例の見直しを行う際に改めて検討したい。

問 町民の多様な意見を的確に把握する、吸い上げるということについて、具体的にどういった方法を考えているか。

答 議員個人も各地区での声を集めていくこと。議会としてはこういった説明会を行うことで実現していきたい。

問 一般質問において、「検討する」という回答がされた際に、その後検討した内容が出てこない、どこに出ているのか分からぬ。追跡調査というものが出ていた時期もあったが現在はない。検討内容はどういった形で住民へ周知していくのか、方法について徹底していってほしい。

答 回答が得られた際には、議会だよりに追跡調査として掲載していきたいと考えている。

②南部町議会議員定数について

・木内秀樹議員 説明

〈質疑応答〉

問 定数が12人から10人になるということで、小さな地域では議員を立てられず、衰退していくてしまう恐れがある。安易に定数を減らすことは地域の声を町に反映しにくくなるのではないか。各地区に一人くらい議員がいるのが理想だとは思っている。

答 定数削減により特定の地域では議員が選出される可能性が減ることは認識している。各議員が議会外でより多様な声を集めしていく必要がある。地域に出向いて町民の声を聴いていく方向性にもっていかなければいけない。

問 今回のような機会はこれから増えていくと思うが、議員のいない地区から議員による説明を求められた場合、どのような対応を現時点で考えているか。

答 今回、初めて懇談会を行ったが、これからこういう機会を増やしつつ、ご質問いただいた内容についても取り組んでいきたいと考えている。人が少ない、議員がいない地域がおそろかになることがないよう取り組んでいく。

問 議員が減ることで、委員会審査が5名ずつで行うことになる。委員長と副委員長を除けば残りは3人だけであり、会議がしにくくなると考えられる。場合によっては合同といった形も検討していくべきではないか。

答 ご指摘の通り、2.3人で意見をだしてもいいのかという疑問はあった。委員会審査についてはこれから改めて検討していくが、議員全員で出るという方向になるのではないか。

意 行政改革基本大綱に関する提言の中の5番目には議員定数の削減という項目がある。反面、若い人、女性など多様な人が、議員活動が生業として成立するような経済的な条件が必要ではないかという内容も提言の作成過程では出ていた。

③南部町議会3月定例会の概要と議員報酬について

・遠藤高芳議員 説明

〈質疑応答〉

問 女性の参画について、紙面で謳っているだけでなくどういった形で具体的な活動をしていくのか

- 答 そうなってしまうことがないよう議員一丸となり、取り組んでいく。
- 問 議員報酬について、個人的には上げることについては賛成。ただ、どの程度上げていくのか、現時点でのれくらいの上げ幅を想定しているのか、そして今後、報酬審議委員会にかけるまでに、もう一度こういった機会を設けて町民への説明をするべきではないか。そして、報酬の額についても根拠を明確に示し、賛同を得たうえで話を進めて行ってほしい。額についても他所の自治体ではいくら等という理由は算定の根拠とならないため、南部町議会としての根拠を示してほしい。そしてそういった経過についても紙面等での報告をしてほしい。
- 答 報酬の件については、初めて取組むことであるため、3月22日に全国町村議会議長会議事調査部長の飯田厚様をお招きし、ご意見を伺った。今後、町の皆さんのご意見を重点的に伺い、議員間での話で終わらせることなく町民の声を聞きながら進めていきたい。
- 問 人口推移について、6年後に5000人、高齢化率も5割を超えるという現状において、議会でどういった取り組みを現時点で考えているか。
- 答 この問題は、町民全体で考え、取り組まなければならない課題であり、この場の一言で具体的には答えることはできない。
- 問 今回質疑で終わっている内容については、今後どういった形で回答をいただけるのか
- 答 いただいた質問や意見については議員で話し合いの場を設け、改めて皆さんにお示しする形を取る。
- 問 •今回参加されている女性の意見も吸い上げていただきたい
•3委員会をもってという風に説明で聞こえたが、その点はどうなのか
•議員報酬については賛成の立場であるが、もう一度よく検討をしたうえで提案したらどうだろうか
- 答 今後女性の皆さんのが議員を目指せる、目指したくなるような取り組みをしていこうと考えている。女性を含めた色々な方の意見をお聞きして皆様にもお知らせできればと思う。
- 答 委員会構成については素案を作成している段階であり、これから特別委員会の中で煮つめしていく。素案の段階ではあるが、常任委員会を3つ、総務建設、文教厚生、広聴広報という構成を考えている。

答 報酬について、議員がどういった業務をこなしているか、そしてそれに対してどれほどの報酬が適当かというものを示したシートを作成し、それに書き込みながらやっていくということが大事だと考えている。会議だけで終わらせるのではなく、町民の皆さんと相対して、意見を聞きながら、進めていければと考える。